



Title	統合を求めて : ポスト・ソビエト期カザフスタンにおける政治、権力と象徴の曖昧さ
Author(s)	インセバイエヴァ, サビーナ; INSEBAYEVA, Sabina
Citation	日本中央アジア学会報, 16, 46-47
Issue Date	2020-07-31
DOI	https://doi.org/10.14943/jacas.16.46
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/88513
Type	journal article
File Information	JB016_010insebayeva.pdf



統合を求めて

—— ポスト・ソビエト期カザフスタンにおける政治、権力と象徴の曖昧さ ——

インセバイエヴァ・サビーナ

本報告は、国民の象徴を考察の対象とし、ソ連解体後のカザフスタンにおける権威主義体制の展開のもとで、象徴政治がいかに国家建設、民族アイデンティティ形成、体制の正当化に関わってきたのかを考察するものである。そして本報告は、国民の象徴、とりわけ国歌や紙幣が、カザフスタンにおける国民のアイデンティティに関わるより広い言説の一部として機能していることを明らかにした。カザフ人の国歌、カザフ人の紙幣はともに、国家性と経済的自主性の発露としてだけでなく、国家建設のための重要な要素にもなっている。カザフスタンの諸分野においては、イスラーム・ナショナリスト、共和国ナショナリスト、民族ナショナリスト、スラブ主義者、自由主義者といった権力をめぐり相互に競争する諸勢力が、それぞれに民族アイデンティティをめぐる多様な言説を打ち出している。

そうした背景を踏まえて統治エリートは、自分たちの正統性を高めるために、想像された国家性を定着させることに細心の注意を払い、そのために多くの資源を投入してきた。この努力はおもに、自分たちで創造し、維持し、特定のイデオロギーが支配的な空間に変化をもたらすことのできる国民国家の象徴の分野において行われてきた。そして、紙幣のビジュアル面での変更や、国歌に組みこまれる言葉の選択は、国民のアイデンティティをめぐる言説のより大きな変化をしめす、重要な徴になっているのである。

具体的には、以下のような事例をもとに考えることができる。カザフスタンの通貨は1993年11月15日に公式に流通し始めた。紙幣のデザインは、マンドゥバイ・アリン、ティムル・スレイメノフ、アギムサル・ドゥゼルハノフ、ハイルツラ・ガブジャリポフというデザイナー・グループによって考案された。テンゲ紙幣の一面には歴史上の人物、もう一面にはブラバイ湖、ザイリ・アラタウ、バルハシ湖といった自然風景やモスクなどの歴史建築が描かれることになった。

この紙幣とは異なり、2006年に発行されたテンゲ紙幣では、国旗、国章、ナザルバエフ大統領の署名が付された国歌の歌詞、アスタナ(現・ヌールスultan)のバイテレク・タワーが描かれている。さらに2011～2014年にかけて新たな紙幣が発行されたが、そこではカザ

フスタン独立の象徴であるカザフ・エリ・タワーが、バイテレク・タワーにかわって中心的に描かれた。カザフ民族の象徴の描かれ方の変化は、カザフスタンの国民的象徴のあり方がこの四半世紀の間に大きく変化したことを物語っている。

(筑波大学大学院人文社会科学研究科)